

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年 9 月分）

### 【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

### 【製造業】好調な業績の一方、不調を示す企業も徐々に増加

- 製造業は、鉱工業生産指数では用機械や金属製品を中心に多くの主要産業で前月比増加した。ヒアリングにおいては、好調な受注を継続しているとの声も聞かれたが、中国経済の減速を中心とする海外の経済動向が影響し、売上の減少や受注環境の後退等といった声が徐々に聞かれるようになっている。

### 【地場産業】厳しい状況が続いている

- 地場産業は、鉱工業生産指数で食料品や家具が前月比で低下したが、木材・木製品やパルプ・紙等は上昇した。ヒアリングにおいては、原材料費、燃料費の高騰や市場自体の冷え込み等から、依然として厳しい状況にある。

### 【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、工作機械受注額については、国内向けは9ヶ月連続、海外向けは10ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、老朽化への対応や省力化、省人化を目的とした投資に前向きな声も聞かれた。

### 【個人消費】駆け込み需要が発生

- 個人消費は、小売店の販売額については、家電大型専門店が前年同月比で大幅に増加し、全体としては2ヶ月ぶりに増加した。消費増税直前といったこともあり、大型商業施設では、駆け込み需要が目立った様子。

### 【観光】観光客数は前年同月を下回ったが、宿泊客数は上回った

- 観光は、前年と比較し、休日の日数が2日多く、宿泊客数は前年同月を上回ったが、昨年リニューアルした施設の反動減の影響などもあり、観光客数は下回った。

### 【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、消費増税や海外情勢にかかる為替動向等、外部環境による企業への影響を注視している。

### 【雇用】人手不足の状態が慢性化しているが、一部に解消の兆しもある

- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中で、依然として人手不足は慢性化した状態と言えるが、ヒアリングにおいては、受注量の落ち着きを主因として、人手不足感が薄まってきているとの声も多くなってきている。